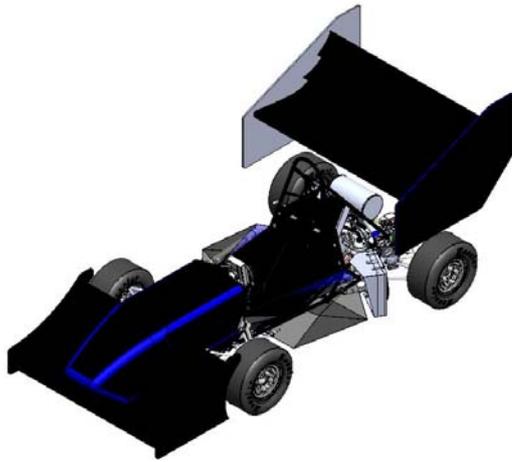


第12回大会を終えて

金沢大学フォーミュラ研究会
Kanazawa Univ. Formula R&D
<http://www.kanazawa-formula.com/>



Presentation プレゼンテーション

マシン名: **KF2014**

第12回全日本学生フォーミュラ大会参加車両KF2014では「Born To Run」を車両コンセプトとして掲げ、入門フォーミュラカーとしての誰でも速く楽しく走ることが可能な車両をめざしました。最も車両のパフォーマンスが示され、かつ大会の審査項目中で配点の高いエンデュランス審査において上位を獲得することを目標として、昨年度車両KF2013からパッケージを見直し、大幅に設計を変更しました。

車両重量を大幅に軽量化し、ヨー慣性モーメントの低減を狙うためにエンジンは昨年に引き続き単気筒エンジンを搭載しました。昨年度車両まで13インチタイヤを使用しておりましたが、軽量化のため10インチタイヤを採用し、それに伴いアクスルをはじめとした足まわり部品の軽量化をめざしました。車両中で大きなウエイトを占めるフレームについても軽量、コンパクトになるようパイプの配置を見直し設計しました。また、ドライバーの体格に合ったシートを発泡ウレタンにより製作、さらに空力補助を用いることでドライバースキルによるラップタイムの差を少なくすることを目的とし、昨年度搭載していなかったエアロデバイスを搭載しました。

Participation report 参戦レポート

昨年度大会では動的審査に出場しましたがエンデュランス審査途中リタイヤという結果でした。この悔しさを糧に、第12回大会では車両をフルモデルチェンジし、チーム一同1年間努力して参りました。

今年も引き続き人数の少ない中での車両製作を行うこととなり、また一から車両を製作するのは初めてのメンバーがほとんどであったため予想外のトラブルが続出しましたが、先輩方のアドバイスもあり、4月末にシェイクダウンを行うことができました。

シェイクダウン後に走行中の不具合による修正部品、また新規に取り付けが決まった部品もあり、静的審査書類準備と並行して、新入生にも手伝ってもらい部品の製作を行いました。動的審査で点数を稼ぐため、大会直前は車両走行のために何度も遠征に出かけ、また学内で走り込みを時間ぎりぎりまで行いました。

大会では、車検も1回での通過とはなりませんでした。数点の修正で通過することができました。動的審査に重点を置いていたこともあり静的審査はふるいませんでしたが、動的審査では昨年度に比べて点数を上げることができ、総合順位13位、ジャンプアップ賞1位、燃費3位を獲得することができました。来年度は今年度の課題を克服できるよう努力して参ります。

最後に、これまでさまざまな場面でチームを支援していただいたスポンサーの皆様、先輩方、大会を運営していただいたスタッフの方々、その他多くの方々へ、この場をお借りして心より御礼申し上げます。



今回の総合結果・部門賞

- 総合13位 ●省エネ賞3位
- ジャンプアップ賞1位

Profile チーム紹介・今までの活動

私たち金沢大学フォーミュラ研究会は2002年に発足し、2003年の第1回大会から参戦しています。大会への出場を通して工学的知識や技術、社会に出てから必要とされる能力を身につけ、将来社会でそれぞれの分野を牽引していけるような社会人となることを目標とし活動しております。

Team-member チームメンバー

笹尾 真裕 (CP)

稗田 登 (FA)、野末 浩隆、米田 慎之介、小林 正弥、島 悠介、星野 今日子、安井 紀一郎、植西 国央、岡村 篤志、斎藤 一輝、斉藤 立矢、田尻 紘己、寺澤 佑丞、花里 文宏、星野 匡史、山本 雄介

Sponsors スポンサーリスト

スズキ、高松機械工業、タカサーキット、北國新聞社、アルテック、石原金属化工、江沼チエン製作所、金沢大学技術支援センター、グランゼーラ、小松鋼機、NTN、UACJ、協和工業、スズキ部品秋田、ソリッドワークスジャパン、津田駒工業、東日製作所、日新レジ、日本精工、プレニー技研、プロト、細田塗料、ミスミグループ本社、ヤマハ発動機、ヤマモト、和光ケミカル、他多数